

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0174700153), 法人名 (社会福祉法人 上士幌福寿協会), 事業所名 (認知症高齢者グループホームむかし館・くつろぎ), 所在地 (河東郡上士幌町字上士幌東3線241・2線242番地), 自己評価作成日 (令和4年1月24日), 評価結果市町村受理日, 令和5年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

丁寧な関わりを通して最後までその人らしく、できることを続けていけるようサポートすることに力を入れています。ひとりひとりと寄り添い、その方を深く知り、親身になって関わることを意識しながら対応しています。むかし館では1月に新型コロナウイルスに感染、クラスターになり、利用者の方に辛い思いをさせてしまったため、今後の状態把握とともに感染予防対策をさらに徹底していけるよう、振り返りをしっかり行ないたいと思っています。面会制限については引き続き継続しているため、個人向け広報にて状況を伝え、何かあった際には随時電話で連絡するなど情報の提供に努めていました。職員については面談を1回実施し、現状の話や今後目指すものなどの話を聞く機会を作りました。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JisyoVoCd=0174700153-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年3月1日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人上士幌福寿協会が運営するグループホームむかし館は2ユニットで運営されており、地域の中にあって頼れる存在として貢献している。新型コロナウイルス蔓延前は、施設内で職員やボランティアで運営している食堂を開設し、憩いの場として交流を図っている。併設の小規模多機能事業所、地域密着型の小規模特別養護老人ホームと3事業所で地域支援グループを構成し、防災訓練、運営推進会議、研修と合同で取り組んでいる。利用者との関りの中では特に接遇に配慮し、研修や会議の中で丁寧で、優しく、思いやりのある対応を心掛ける様に指導している。コロナ禍の現在、家族や友人との面会は少なく外出もできなく、不安とストレスの中での生活を余儀なくされている利用者へ寄り添った支援を目指し、事業所内の行事やアクティビティに工夫をして、気分転換と楽しい時間を過ごせるよう配慮している。日常生活や他の状況について家族には小まめに電話連絡や通信でお知らせし安心できるように配慮し、信頼関係が築かれたグループホームとなっている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service results and evaluations.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者本位のサービス提供と自立支援を目指して」と理念を掲げている。日常的に見えるところに掲示してある。	法人理念を玄関、リビングに掲示している他、事業計画書にも掲載し管理者、職員が理解して実践に努めている。また、パンフレットには事業理念が掲載しており職員の目指すべき方向を設定している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との関わりが少なかった。	新型コロナウイルス感染症が蔓延以前は毎月、法人内地域交流室で地域貢献の一環として居酒屋「裏めし屋」を開きワンコインで楽しく食事ができる交會を開催している。また、各種会議や行事に参加し相互交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、事業所での活動状況などを知ってもらい意見交換している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や待機者状況など報告し、職場の現状など伝え意見交換している。	利用者家族、学識経験者等多彩なメンバーの出席を得て系列の地域密着型の事業所と合同で開催しており利用者動向、事業報告を行いサービス向上に活かしている。	利用者家族の委員は限られており、話し合われた内容を全家族と情報共有する工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定の更新などの際に担当者と情報交換や意見交換を行なっている。	町担当者とは毎月入退所の連絡表や事故報告書提出で訪問し、情報交換、意見交換を行い協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が主体となり身体拘束排除に向けた取り組みを日常的に行なっている。事業所にて年2回研修を行ない、身体拘束排除について周知している。また事業所にて委員会を設置し、毎月検討している。	身体拘束廃止に向けては毎月の会議の中で委員会を開催し検討している。地域密着型事業所の地域支援グループで年2回副主任が講師になり研修を行っており、身体拘束の無い介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人が主体となり虐待防止に向けた取り組みを日常的に行なっている。事業所にて年2回研修を行ない、虐待について学んでいる。また事業所にて委員会を設置し、毎月検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している方がおり、情報交換を密にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書により説明している。また、利用者・家族から不安なことなどを聞き取り、十分に話し合いを行ない理解を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には日常的な関わりの中から要望など聞き対応している。家族の方については電話連絡時や個人広報などにより情報提供をしている。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時に把握するように努めているが、面会を制限している中では家族とは電話で様子を報告している他、2か月毎に写真の入ったお便りで報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の意見交換や毎月の会議にて機会を設け対応している。職員が主体となるようキャプションカードを活用し、意見を引き出すようにしている。また職員と話をする機会を作り、日頃の不安や考えなど聞いている。	職員の意見や提案は日常業務の中や毎月の定例会議の中で聞く機会を設けている。また、職員は、キャプションカードの提出活用機会や、個人面談があり出された意見が反映出来る様に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場を目指し規定など法人で変更しているところである。現場では意見など言いやすい雰囲気作りを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けるなどの機会作りはできなかった。グループ内会議においては、必要と感じる内容についてグループワーク形式にて勉強会を実施している。副主任以上が講師役を務め、副主任のスキルアップを図っている。また、職員に対しては日常的に疑問点など解消するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報を見ることで終わり、外部との交流の機会は作れなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にじっくりと関わり、不安点や疑問点など解消できるよう関わり、混乱がないよう対応している。希望など含めて聞き、その情報を職員に周知することで関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの暮らしについて十分に説明を行ない、家族の要望を取り入れながら不安を解消していただけるよう努めている。また、来館されたときには近況を報告し、コミュニケーションを図るように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、希望に添えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的には本人の思いによって一日を過ごしてもらっている。一日を通して今までの習慣など続けてもらえるよう関わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化などあるときは随時連絡し、家族にも協力してもらい、ともに本人を支えられる関係を築けるよう努めている。また、個人向けの広報を発送することにより、本人の状況を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会を制限しており、ほぼ機会がなかった。	利用者馴染みの場所訪問や、知人友人の面会はコロナ禍でもあり機会がなくなっているが、塗り絵等の趣味の活動を楽しんだり、チラシでゴミ箱作りをする等、これ迄の趣味や習慣の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	設えを工夫し利用者の方同士関わることのできる空間作りに努めている。また、一人一人の思いに沿った居場所作りを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者のご家族との関係は退居後も続き、顔を出しに来てくれたり募集しているタオルなど持参してくれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの習慣や会話の中から希望などを聞き、記録に残して把握するようにしている。	終末期の迎え方やそれまでの暮らし方の希望は利用契約時に主に家族から生活歴をはじめ伺っており、希望に沿った生活が出来るように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、知人の方などから生活歴や暮らしの状況などを聞き、情報を職員間で共有し関わっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の会議にてカンファレンスを実施している。日常的なものについては随時話し合いを行ない対応している。また、アセスメント表の活用をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から本人、家族と話し合い、随時または会議にてカンファレンスを行ない、現状に合った計画を立てるよう努めている。	介護計画は基本的には6か月毎にカンファレンス、モニタリングを行い、本人、家族の要望を反映して見直しを行い、現実に即した計画とサービス提供を行っている。今年度からバイタルをはじめ生活記録をデジタル化する予定となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケースに落とし、必要と判断した内容については随時協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じてできる限り柔軟な支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりがほとんどなかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人、家族の希望を大切に、地元協力病院にて相談などが可能であり、治療を受けている。	町内のクリニックが利用者のかかりつけ医になっており、毎月1回の往診を受けている。グループホームの職員が24時間連絡可能になっている医療機関と連携を取り健康管理を担当している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は担当職員と情報交換を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針をもとに、あらかじめ話し合い家族の意向を確認している。また、カンファレンスにて終末期の関わりなど話し合い、ご家族にも相談し、方向性を出している。協力病院とも連携をとっている。	重度化した場合や終末期の在り方については指針をもとに利用契約時に話し合わせ意向を確認している。取り組むときには再度説明が行われ医療機関、家族と連携を取り支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を実施している。緊急時対応のマニュアルを用意し、振り返りなど行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年に2回訓練を実施している。災害時訓練も含め、対策を法人全体の取り組みとして実施している。	火災の避難訓練は併設の地域支援グループが合同で計画をして、年2回夜間想定で行っている。別棟には夜間の警備員が常駐しており緊急時の対応も可能となっている。業務継続化計画を作成しその他の災害にも備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報取り扱いについては、法人内規定(個人情報保護法)に従い取り扱っている。	一人ひとりの尊厳を守り、誇りを損ねない様、言葉遣いや行動について接遇研修や毎月の職員会議で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本は「受け入れる」ところから始め、時間をかけて自己決定に繋がるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があった時には利用者優先を基本としている。どうしてもその時に叶えられなくても、日程を調整して叶えられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は希望時来館してもらいカットしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものなどを聞き、下ごしらえなどできることがあれば一緒に行なっている。	献立、調理は職員が交代で、利用者の好みや、希望を考慮して行っている。出来ることは利用者と一緒に取り組み楽しい食事になる様に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量に変化がある場合は細かく見るようにしている。水分量は1500mlを目標としており、好みの飲み物や生活に合わせて自然に飲めるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、もしくは就寝時に支援、声掛けしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排泄のチェック表の活用から、パターンや習慣を参考にしている。トイレでの排泄を随時対応している。	排泄は全員の記録を取り、習慣や間隔を参考にしてトイレでの排泄が出来る様に支援している。夜間はポータブルトイレを利用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を意識し、水分量確保、腹部マッサージなど取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日朝からお湯を入れておき、いつでも入れるようにしている。(職員が一人になる時間帯以外)入浴剤を入れ、希望に合わせて入浴できるよう努めている。	入浴は週2回、利用者の状態や状況を鑑み気持ちよく入浴できるように支援している。時には入浴剤を使用し気分を変えた入浴に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間のソファでうたた寝や1時間ほどの昼寝など、それぞれに過ごしている。起床時間もその方に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された際に内容の確認をし、セットしている。変化があるときは病院へ連絡し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味など役割や楽しみは人それぞれ感じ方が違うため、その方がしたいと思えることをしてもらえるように関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な町外受診のほかは、施設の周りを散歩する程度の外出だった。	コロナ禍の現在は医療機関への定期受診と事業所周辺を散歩したり、日光浴で外気にふれる程度の外出となっている。一時期コロナが下火になった時期には利用者と中庭で焼き肉をして楽しみ、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはこちらで預かり、希望時に希望の物を購入している。自分で持っていたい方については、契約者の方に話をし、同意を得て持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時対応し、電話の場合はまず職員の方で話をし、その後本人と話してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で生活できるよう設えを工夫したり、観葉植物を育てるなどしている。利用者の方にとって不都合が生じた場合には随時検討している。	観葉植物を育てたり、季節ごとの飾りつけて楽しい雰囲気を作っている。換気、温湿度、清掃等環境保全に取り組み、快適な生活が出来るよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の希望する設えに近づけるよう日々工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物を飾ったり、今まで使っていた家具などで工夫している。	ユニットごとに居室の様式が異なり、二間続きの部屋や天井に傾斜の付いたお洒落な部屋が用意されている。利用者はタンスや衣装ケース等の家具、仏壇を配置し家族の写真を飾り自宅同様に生活出来る様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	使い慣れているものはこちらで動かさない、広すぎず狭すぎず、つかまれるところを作るなど、一人一人が生活しやすいよう工夫している。		